

## 市長の意見交換会<畠野地区> 質疑要旨

日時：令和7年12月7日（日）14:00～15:00 会場：畠野農村環境改善センター

参加人数：18名（下記市職員は含まない）

佐渡市：渡辺市長、岩崎総務部長、北見企画部長、河島財政課長、畠野行政SC 金子センター長 ほか4名

### 1. 市政について

市長より説明	(説明内容)
	<p>○持続可能な島づくりの実現に向けた現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今生まれた子どもたちが成人するころまで、今の島、環境・文化・コミュニティ・経済等を維持する。</li> <li>・人口は減るが、外国人を増やしたり、働く世代の人口を減らさず維持していく。</li> <li>そのための対策の一つとして、結婚・出産・子育てに関連した支援を行う。</li> <li>・高齢化対策として、元気な高齢者を増やすため、健康寿命を延ばす対策を行っている。</li> <li>・佐渡で働く人口を増やすため、ビジネスコンテストや島の推しごとグランプリを開催。若い人に魅力のある職場情報を発信。</li> <li>・今の子ども及び親世代が、自信をもって佐渡に帰って来いといえる教育・環境づくりに取り組んでいる。</li> <li>・行財政改革として、官から民へ移行できるものはしていく。</li> </ul> <p>AIやデジタル申請を使用した事務効率の向上、窓口に出向かなくても必要書類を取得できる仕組みづくりに取り組んでいる。</p>

### 2. 質疑

質問者 (居住地区)	意見の要旨	市長の回答	関係部署
(畠野)	介護保険料が高い。物価高騰により、年金暮らしの高齢者にとっては大きな負担となるが、市として支援をするつもりがあるのか。	介護保険だけに限った支援はしないが、物価高騰対策の支援は考えている。住民税非課税世帯はもちろん、一般的家庭にも支援できるよう考えている。	高齢福祉課
(畠野)	<p>「宵の舞」や「民謡の祝祭」の在り方について、参加団体を多くするためや維持していくために、民謡団体や関係者による行事運営への奉仕が増大になり負担となっている。</p> <p>また、参加費やチケット代の収入だけでなく、どこからでも良いので補助が出るようなやり方をしないと、関係者や関係団体は少なくなる一方だと思う。佐渡の活性化のためにもお願いしたい。</p>	イベント時に何らかのお金を払うというのは、イベントの在り方から考える必要がある。民謡だから支援するとなると、スポーツ大会でもそうなる。行政の経費でイベントを行って、それでイベントとして成り立つか。今の場合には、市として場所を提供し、それにかかる料金を徴収している。宵の舞と民謡の祝祭ではまた趣旨が少し違う気がする。イベント発表の場なのか、寄せの出演者として出てもらうのか、その辺の整理も大事。今後検討させていただきたい。	文化スポーツ課
(畠野)	現状、墓じまいや家じまいが増える一方、子どもを産む人がどんどん少なくなっている。佐渡は終息に向かっているのではないかと危惧している。その解消のために、羽田空港発着の2,000m級の空港を整備してほしい。	2,000m級に絞って言うと、山に引っかかり角度制限があるので、今の向きではできない。環境アセスメントをすべてやり直す必要がある。屋久島で、1,300mくらいの滑走路を2,000mに伸ばす計画があるが、まっすぐ伸ばすだけなのに10年かかる。佐渡の現状を考えると、一つの大きな夢としては非常に大事だが、人口が減る中、15歳から64歳までの生産年齢人口を動かしながら経済を動かしていくことを考えていかなければならない。ただ、地権者の方にとっては言い始めて30年もたっているので、この問題をどう理解してもらえるのか、必死にやっていかなければならない。	交通政策課

質問者 (居住地区)	意見の要旨	市長の回答	関係部署
(畠野)	<p>島内各所に避難所があると思うがその整備についてお聞きしたい。</p> <p>畠野農村環境改善センターにしても、雨漏りはしているし、男子トイレについては洋式トイレは1つしかない。避難者が多数来た場合、特に年寄りがそれで大丈夫なのかと非常に心配。畠野だけではなく全島の避難所についての現状を調査し、緊急のところは、やれるところは少し手をかけてほしい。</p>	<p>トイレについては構造的な問題もある。全部洋式になると大幅な改造が必要となる場合もある。当然増やしていく必要はあるので、国の補助金を利用しつつ可能な範囲でやっていく。</p> <p>トイレカーを1台入れようと準備をしている。全島避難というよりは、地域地域で避難というほうが多いので、そういうときに役立ち、普段はイベント時にも使用できる。</p> <p>避難所のプライベート空間についても、テントや段ボールベッド等の備品も確保している。すべてトイレに予算を割くというわけにはいかないが、その予算は確保していくと考えている。</p> <p>また、EVカーを増やし、V2H（電気自動車から家庭へ給電するシステム）も整備しつつある。EVカーをつなげば、避難所の電気が使えるようになる。抜本的に何かを作るのは難しくても、災害の被害を和らげる対策をいろいろとやっていこうと考えている。</p>	防災課
(真野)	<p>柏崎刈羽原発に再稼働の動きが出ているが、避難困難な30km県内の市町村では、市長をトップとした市民との意見交換会が行われている。そこで佐渡は30km圏内から少し外れるが、海上に浮かんでいる島だと避難がとても難しい。万が一事故が起きた時に、佐渡のどこにヨウ素剤があって誰が運ぶのか、最低限そのぐらいのことは佐渡島民に知らせてほしい。</p>	<p>今は30kmを超えて放射性物質は出ないという結論になっている。東日本のようなことがあっても、30km圏内以上に飛ぶことはないと結論。佐渡の避難はどうなっているかというと、万が一何かあったときは屋内避難。ヨウ素剤の件もあるが、モニタリングポストの設置も要望している。柏崎に近い赤泊に設置してほしいと要望している。</p> <p>対策はしていかなければならないが、30km圏外の市町村に対しては避難範囲ではないため情報が入ってこない。島民を安心させるためにも、国や東京電力は新潟県内の市町村に安全だと説明してほしいとずっと伝えている。知事の言う7つの要件の1番目に、県民にもっと説明してほしいというのがある。</p> <p>ヨウ素剤の数については、確認しておく。</p> <p>(新潟県HP掲載の新潟県安定ヨウ素剤配布計画（Ver.2令和6年2月）では、佐渡市内に備蓄場所「佐渡保健所」、備蓄数量「錠剤 111,000錠」と記載されている)</p>	防災課

質問者 (居住地区)	意見の要旨	市長の回答	関係部署
(畠野)	<p>合併して21年が経過し、支所・サービスセンターが来年度から市民センターとなる。統廃合を考えているのか。</p> <p>合併から小中学校の統合が進み、小学校が16校、中学校が6校廃校となっている。空き校舎については使途未定となっているが、跡地の有効利用について、どのように考えているのか。</p>	<p>支所・サービスセンターを市民センターとするが、基本的に変わることはないと思っている。支所というのは、市民サービスセンターを統合して調整する機能がないといけないが、今の両津・相川支所ではそれができない。羽茂は南部の調整をしているが、それも建設と水道だけで災害の時の連絡体制はうまくいっていない。</p> <p>支所を置いた理由には、保健師の配置と、建設系・水道系のとりまとめだが、機能としては市民センターにしても何の問題もない状態になっている。機能を一律にするだけで、今の段階では統合は考えていない。ただ、将来的には考えていかなければいけない。市民センターにしたとして、機能的には全然変わらない。建設系、水道系を本庁から直に情報が行くようにしたい。</p> <p>学校の跡地利用について、改修しようとすると莫大な予算がかかる。ハード面よりソフト面に力を入れていきたいので、民間にうまく活用してもらえないかと考えている。たとえば保育園跡地は民間の保養所に適している。企業誘致を含め、民間の資金を活用しながら改修していくことで考えていきたい。</p>	総務課 財産管理課